

通し番号	4861
------	------

分類番号	28-99-34-02
------	-------------

(成果情報名)アーカイバルタグにより記録された相模湾周辺海域でのブリの回遊履歴
[要約] 相模湾周辺海域でのブリの詳細な回遊履歴を把握し、定置網による漁獲変動との因果関係を明らかにすることを目的として実施した。相模湾内で釣獲した若齢(1-2歳)のブリにアーカイバルタグを取り付け、放流後の移動範囲、遊泳水温、遊泳水深のデータを再捕魚から回収し、分析を行った。調査の結果、若齢ブリの回遊範囲は概ね房総半島～伊豆半島の間であった。また、遊泳水深は体長の大きい個体ほど深い水深帯を遊泳している傾向があり、夜間は昼間と比較し浅い水深帯に浮上する日周鉛直移動の傾向が見られた。
(実施機関・部名)神奈川県水産技術センター相模湾試験場

[背景・ねらい]

本研究は、中央水産研究所が主導して行ったブリ回遊調査の一環で実施した。ブリ資源は現在非常に高水準の状態であり、資源増加期には回遊範囲が拡大すると考えられている。しかし、資源量の増加が相模湾における定置網の漁獲増に必ずしも繋がっていないため、周辺海域におけるブリの回遊履歴を調査し、その原因を検討した。

また、本調査から得られた遊泳水深・水温のデータは、今後、定置網での身網設置水深等の漁具改良のための知見やブリの来遊予測に役立つことが期待される。

[成果の内容・特徴]

- 1 相模湾内で標識放流した1-2歳の若齢ブリ(イナダ・ワラサ)は大半が房総半島～伊豆半島の間滞留し、2歳以上の個体は春季に御前崎沖まで回遊した例が見られたが、未成魚は大きな移動しないことが示唆された(図1)。
- 2 遊泳水深について、大型の個体の方がより深い水深帯を遊泳している傾向が認められ、特に冬季の間は1歳魚と2歳魚では遊泳水深に30m前後の差が見られた。また夜間と昼間では20-30m前後滞在水深が異なる傾向が認められ、日周鉛直移動をしている傾向が見られた。特に冬季にその傾向が認められた(図2)。
- 3 遊泳水温について、平均遊泳水温に個体の大小で差はあまり見られなかったものの、大型個体の方が最高遊泳水温・最低遊泳水温の差が大きく、滞在水温帯が幅広い傾向が認められた(図3)。
- 4 調査結果から、若齢魚は冬季も相模湾周辺海域に滞在していることが示唆された。しかし、相模湾の定置網での若齢魚は冬季の漁獲量が少なく、冬季は相模湾周辺にはいるものの、沿岸によらず沖に滞在しているため漁獲されない可能性が考えられた。

[成果の活用面・留意点]

- 1 本研究で得られた知見は、中央水研・日本海区水研、他道府県が参加のブリ資源調査検討会で報告した。また、今後中央水研・日本海区水研で他県の事例を集約し、日本周辺海域のブリ回遊調査の取りまとめを行う。
- 2 ブリは定置網での重要漁獲対象魚種であり、回遊履歴の情報を知ることは、定置網身網の設置水深の検討や、来遊予測などにも利用可能なデータとなる。今後県内漁業者に対して本研究で得られた結果を情報提供し、より効率的な操業に資する。

[具体的データ]

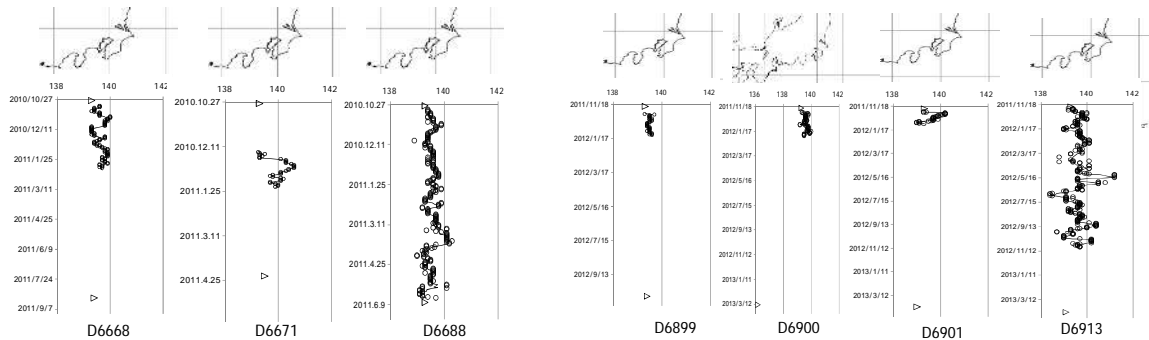


図1 ブリ回遊経度の履歴（左：イナダ（1歳魚）、右：ワラサ（2歳魚））

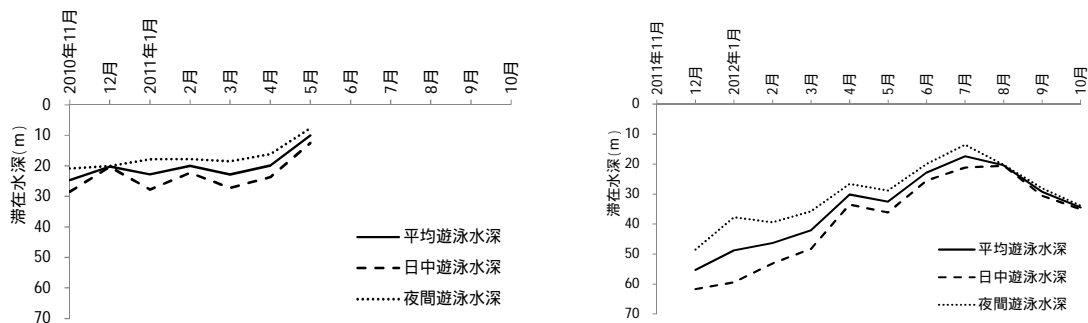


図2 ブリ未成魚の遊泳水深（左：イナダ（1歳魚）、右：ワラサ（2歳魚））

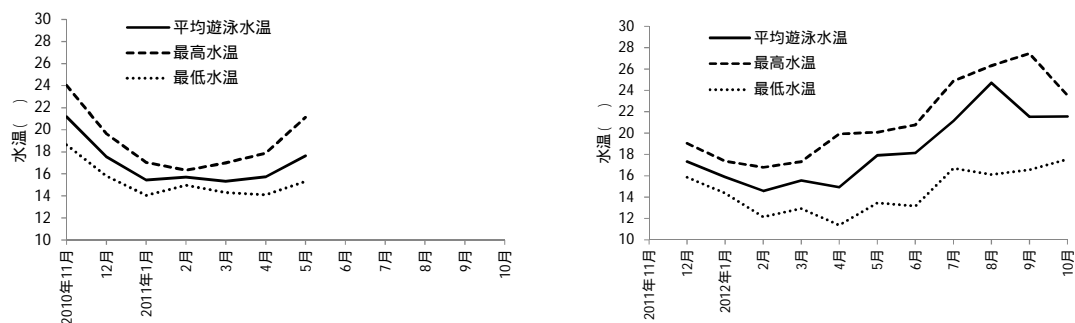


図3 ブリ未成魚の遊泳水温（左：イナダ（1歳魚）、右：ワラサ（2歳魚））

[資料名] 神奈川県水産技術センター研究報告第8号
 [研究課題名] ブリ回遊生態調査（200海里内漁業資源調査）
 [研究期間] 平成20年度～平成28年度
 [研究者担当名] 高村正造